

木村さん (2次マスターコース 土日通学)

平成 27 年 大手予備校通学 1 次試験 合格
2 次試験 不合格 A B B C B
平成 28 年 MMC 通学 2 次試験 合格

1. 初めに

私をご指導くださりましたMMCの先生方、この1年間誠にありがとうございました。
毎週の答練の採点とコメントが本当に役立ち、楽しく受験生活を送ることが出来ました。改めて御礼申し上げます。

2. 平成 27 年 1 次試験

1 次試験は大手予備校に通学し、カリキュラム通り勉強しました。まず、教室で講師の漫談調、かつ、素晴らしくポイントを押さえた講義を聞いて帰り、自宅で教科書を読み、配布されている問題集を解きました。キーワード等の覚えたい言葉がある時は京大式カード (B 6 : B 5 の半分のサイズ) に定義・メリット・デメリット等を書き留め、問題集で間違えた時は作成したキーワードのカードに間違ったポイント等を書き加えていきました。通勤の途中は講義の音声ファイルをダウンロードして IC レコーダーで聞いていました。イヤホンは友人に勧められて、シュアというメーカーの耳の疲れない良い物を愛用しました。

本試験直前は過去問を何度も解いて、間違えたところは教科書で調べ、カードに追加していきました。

結果は 500 点を超える得点で 1 次試験を合格しました。

3. 平成 27 年 2 次試験

実は、1 次試験が終わるまで 2 次試験対策は全くと言っていい程実施していませんでした。

1 次試験直後にまず、アマゾンで ①大手予備校の第 2 次試験過去問題集を年代順に 3 冊購入して平成 14 年分から平成 26 年分まで入手しました。また、②過去に出版された合格答案分析集を第 1 巻 (平成 19 年分) から第 8 巻 (平成 26 年分) まで購入しました。プレミアムが付いて定価より随分高かったのですが、必要コストと思って買いました。

漸く 8 月上旬に 2 次試験対策に着手したわけですが、過去問に取り組んで、自分の解答と大手予備校の解答とを比べてみると、全く違い、こういう解答を書くには 3 年ぐらい掛かりそうだと、気が遠くなりました。しかし、思い直して購入した合格答案分析集と比べると、このレベルには到達できるかもしれないと思い、2 次本試験日まで合格答案分析集を中心に勉強しましたが、やはり学習時間の圧倒的不足で歯が立たずに不合格でした。

4. 平成 28 年度 2 次試験

(1) 平成 27 年度の 2 次試験を終えた直後に不合格を確信しましたので、予備校をどこにするか検討を始めました。検討の結果、MMCにしたのは、①毎週の答練を当日に採点していただき、コメント付きで返却される。②答練の解答を書き直して再提出するとまた採点してコメント付きで返却される。③本試験問題も自習して提出すると採点して下さるという点です。

(2) 1 月になり、講義が始まり、実際に通学してみると毎週が気づきと感動の日々でした。最初に MC サークルを教わりましたが、各事例の構造が体系的に俯瞰でき、今までの自分の知識がいかに断片的だったのかと気づかされました。また、設問文の言葉の意味を詳しく解説していただき、題意の取り違えという大きなミスを防ぐことができる様になりました。

(3) 私の毎週の具体的な勉強方法は以下の通りです。当日の答練が終わると講師から解説講義がありますので、まずできる限りノートを取ります。帰りの電車の中でスマホの office365 のアプリの word に本日教わったことで記憶していることをどんどん入力していきます。私の通学時間は 1 時間ぐらいなので、A 4 用紙で 2 枚分ぐらいを電車の中で入力できます。作成したファイルをクラウドのフォルダーにアップロードして、帰宅後パソコンで完成させます(それが MMC のエッセンスなので、本試験日まで何度も読み返しました)。それが終わったあとに、答案分析を開始します。1 問につき 400 字詰め原稿用紙(本試験の解答の罫目の大きさに近い B 5 サイズ) 1 枚を使います。まず、上段に MMC の解答を書き写します(いわゆる写経です)。下段に自分の当日書いた出来の悪い解答をもう一度書きます(これは悔悟の苦しい作業です)。それから、与件文や設問文のフレーズを引用している部分に黄色いラインマーカー、引用ではなく頭でひねり出している部分に赤いラインマーカーを引きます。MMC の模範解答の良い点、自分の解答が何故与件文を素直に引用出来なかったのか、また、頭でひねり出せなかったキーワードは何か、多面的に書けているか等を分析して、原稿用紙の空白部分に赤いボールペンでどんどん書いていきます。当日に答練が採点され、コメントをもらえるところ、こうした作業を直ぐに着手出来るので効率的に学習できるメリットがあります。特に、解答解説を聞いても自分では出来たつもりの場合があるので、採点結果を見てすぐに反省会を出来るのが良い点です。ところで、MMC の通学理由にしていた再現答案を提出する事は特に不要と自分で判断して結局 1 回も出さずに通学期間が終わってしまいました。もちろん、MMC の解答よりも良い解答を書きたいという方はどんどん再現答案を提出されると良いと思いますが、私は MMC の通学当初は 52 点から 55 点ぐらいの低レベルの解答しか書けなかったので、MMC の模範解答のレベルにどう達するのかを復習の目標としていました。

(4) 本試験過去問についても、通学当初は MMC の答案作成方法の習得をしてから、分析して提出しようと思っていましたが、4 月頃に先生から「本試験過去問の分析は MMC の答練を受ければ、全て分析済で本試験でも対応可能である。」というお話があったので、結局、過去問は問題文を読んでサラッと解答を書いて、MMC の解答と比べる程度にし、MMC に提出して採点してもらおうこともしませんでした。また、先生から「過去問は物語風に読んで、MMC の解答を読みなさい。MMC の解答は最高点の答案ではなく、80 分で受験生が書けるレベルの合格答案である。」というお話があったので、本試験で目指す解答のレベル感を得るという視点から勉強しました。それから、試験委員の

世界観（どういう対策が善と考えているか）を学ぶことに気がつけました。

（５）事例Ⅳ対策は勉強時間の半分ぐらいは費やしました。勉強時間比だと、Ⅰ：Ⅱ：Ⅲ：Ⅳは 1：3：1：5 ぐらいの感じです。事例Ⅳは５月に開催されるMMCの事例Ⅳ特訓の問題集と毎回の答練時に配られる小問題を４回ぐらい繰り返しました。大変よくできた問題集で、MMCのノウハウが詰まっています。何度も繰り返すと解答の手順も一定しますし、更には、電卓を押す順番も意識的に一定化させました。例えば、損益分岐点売上高を求める時は「リセット」「変動費」「÷」「売上高」「－」「1」「＋ボタン」「M+」「固定費」「÷」「MR」とこの順番で押すと決めることで、計算ミスが減り、答練でも安定して高得点を取れるようになってきました。

余談ですが、自宅学習で計算用紙は本試験と同じ様にB5サイズの茶色い用紙を量販店で買って使用していました。とにかく、本番と同じ環境を作り、作業手順を同じにすることに気がつけました。

（６）こうして、勉強をすすめて行くと7月頃には事例Ⅰ～Ⅲでも答練で平均して合格点の60点を取れるようになってきました。設問文を正しく理解できて、各設問に応じて与件文から正しく引用することができる合格点レベルになり、更に、多面的に書けたり、キーワードを増やせば更に点数が伸びるが、逆に、失敗すると大きく減点されることを毎週の答練で体感できるようになりました。本番試験が近づいてきた時、現時点では、事例ⅠからⅢは合格点を若干上回る解答を書くことを漸く出来るようになったので、無理に高得点は狙わず、但し、事例Ⅳの開始までに体力を温存して事例Ⅳでやや高得点を取って、合格圏内に入るという目標設定にしました。

本試験日の前日は本試験日と同じ時間に電車に乗って下見に行き、昼食を買うコンビニをチェックしました。本試験当日は購入する物も普段の模試と同じサラダ・お握り・お茶・チョコレートを購入しました。MMCの先生から「解答はキーワードを減らしても、分かりやすく伝わりやすい答案を書くように」と指導がありましたので、普段通りの解答を書くように気を付けました。

5. 終わりに

この1年間はMMCのご先生方のご指導を信じて、楽しく勉強させて頂きました。採点し、コメントをくださった先生方本当にありがとうございました。

受験生・受講生の皆様もMMCを信じて、是非とも合格を勝ち取られます様、祈念しております。

以上